

【樹木・草花の部屋】

アジサイ（アジサイ科アジサイ属 Hydrangea）

和名（漢字）；紫陽花 **別名**；八仙花、綉球花、七変化 **英名**；Round Leaf Holly
バラ目 落葉低木

原産地；日本

語源；アジサイは花の色が変わることから「七変化」、また花びらが4枚であることから「四ヒラ」とも呼ばれました。

いまの「紫陽花」は白樂天の詩の一節に紫陽花が使われ、平安時代に源順がこれをアジサイと解し以後広まったとする説があります。

花言葉；移り気、高慢、無情、辛抱強い愛情、冷淡

花の色；紫、ピンク、青、白など 6月から7月に、新しい枝の先に直径20㌢内外の花房をつくり多数の花を密につけます。



⇒ **写真－1** ガクアジサイの樹形

学名：Hydrangea macrophylla

撮影日：2004年6月3日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者：Mさん

(1) 日本の野生種の変種・ガクアジサイ「墨田の花火」です。ガクアジサイの装飾花*が八重のものを「墨田の花火」と呼ばれ、装飾花の柄が長く、散る花火に見立てたようです。

写真－2 ガクアジサイの鉢植

⇒

撮影日：2011年6月13日

撮影場所：奈良県広陵町

S邸にて

撮影者：Sさん



【樹木・草花の部屋】

写真-3

セイヨウアジサイ ⇒

学名：Hydrangea

撮影日：2004年6月3日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者：Mさん



(3) はセイヨウアジサイで最も一般的に植えられている球状のアジサイ。日本原産のガクアジサイを改良した品種（ヒメアジサイやテマリ咲きアジサイは別）。

<ちょっと一言>

*一般に花といわれている部分は装飾花で、花びらに見えるものは萼（がく）。

ガクアジサイでは密集した両性花の周囲にいくつかの装飾花がみられますが、セイヨウアジサイではほとんどが装飾花となっています。また、ガクアジサイ「三河千鳥」など装飾花の欠如した変異もあるそうです。

樹高は1～2メートル。葉は光沢のある淡緑色で葉脈のはっきりした卵形で、周囲は鋸歯状。6月から7月に紫（赤紫から青紫）の花を咲かせる。花（萼）の色はアントシアニンという色素によるもので、アジサイにはその一種のデルフィニジンが含まれており、これに補助色素とアルミニウムのイオンが加わると、青色の花となるそうです。

土壌のpH（酸性度）によって花の色が変わり、一般に「酸性ならば青、アルカリ性ならば赤」といわれている。これは、「土壌が酸性だと土壌のアルミニウムが溶け出し、吸収されて花が青色となり、逆に中性やアルカリ性であれば、アルミニウムは溶け出さず吸収されないため、花は赤色となる」とことだそうです。酸性の肥料や、アルミニウムを含むミョウバンを与えれば花は青色に・・・。

同じ株でも部分的に花の色が違うのは、根から送られてくるアルミニウムの量に差があるため。品種によっては遺伝的な要素で花が青色にならないものもあるとか・・・。

剪定方法

大型化したのでこじんまりとさせたい場合、来年の花芽を諦められるなら、株元付近から切り戻して最初から仕立て直すこともできます。

アジサイの花は2年目の枝に付くので株元から混みあっている茎や今年開花した茎を間引くようにすれば、スッキリ感を出すことができます。

できれば年2回剪定をします。1回目は花が終わった直後に、花殻の下を2枚か4枚付けて切ります。そうすれば切った場所から枝が2本出てきて、これに花芽が付きます。2回目は10月以降の気温が低くなった頃、花芽が膨らんでいる箇所の上を再度切ります。この作業を7月や8月に行なうと、せっかくの花芽が葉芽になってしまうので要注意です。